がけることで，人々が相互に協力し合う地域社会を実現することができるように，取り組んでいきたいと考えております。

次に，女性活躍推進に向けたキャリア教育についてでございます。

本市におきましては，ただいま御指摘のとおり，働く女性の半数以上がパートや派遣労働者などの非正規雇用者でありまして，また，事業所における女性管理職の割合が１０％程度と低い状態にございます。これらの背景には，女性の多くが結婚や出産，育児などのライフイベントにより，みずからのキャリアを諦めてしまう実情があるのではないかと認識をいたしております。

こうした現状を変えていくためには，まず，事業所みずからが，女性が働きやすく活躍できる職場環境づくりをしていくことが最も重要です。それに加えて，これから社会に出ていく若者が，ライフイベントと仕事の両立についての意識を変えていくことが大変重要であると考えております。

そこで，みずからのキャリアデザインを具体的にイメージできるよう，昨年度から茨城大学や常磐大学と連携し，ワーク・ライフ・バランスに基づいたキャリアセミナーを実施しております。昨年度は，茨城大学では，仕事と家庭の両立を実践してきた女性によるシンポジウムを実施し，また，常磐大学では，リスクマネジメントや政治学の観点から，キャリアデザインを具体的に学ぶ講座を実施いたしました。延べ２５６人の学生に参加していただきました。

これらの取り組みによりまして，女性がみずからのキャリアデザインを具体的にイメージできるとともに，男性にとっても，将来のパートナーのキャリアデザインや自分自身のワーク・ライフ・バランスを考えることができ，男女平等参画意識の醸成につながるものと考えております。

私は，女性の活躍推進のために最も重要なことは，事業所みずからが，いかにして女性が働きやすい環境づくりをしていくかであると認識をいたしております。

市内には，事業所内の保育施設を整備したり，女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を取得したりするなど，率先して女性が働きやすい環境づくりに取り組んでいる事業所がございます。そこで，こうした優良事業所の取り組みが他の事業所の模範となるように，広報，啓発に努め，事業所の規模に関わらず，女性が活躍できる環境づくりへ取り組むよう，積極的に支援をしてまいりたいと考えています。

さらに，女性が生き生きと働くためには，男性の意識改革や長時間労働を前提とする男性中心型の労働慣行の変革が不可欠であります。今後も，さまざまな機会を捉えて，市民，事業所や関係機関等と連携をしながら，協力をより一層深めて，女性が働きやすく，活躍できる社会の実現に向けて，積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（村田進洋君）　２番，永元万貴君。

〔２番　永元万貴君登壇〕

○２番（永元万貴君）　茨城大学の永元万貴でございます。水戸市女性議会２０１６の開催に当たり，人文学部田中耕市ゼミナールを代表して，通告に従い，質問いたします。

私は，日本が人口減少社会へと転換したことを受けて，水戸市も既存の施設を有効活用するコンパクトシティ化をより進めていくべきと考えております。そのためには，中心市街地の都市機能の維持，強化が必須

であり，中心市街地への居住者と来訪者を今以上に増加させる取り組みが必要と考えております。

そこで，中心市街地のにぎわい創出について，特に歩行者通行量の増加策について伺います。

水戸市では，平成２７年に中心市街地の歩行者数が過去最低を記録しています。しかし，中心市街地には人が訪れないわけではなく，中心市街地の大型店には多くの人が訪れています。すなわち，郊外大型店の存在いかんにかかわらず，中心市街地への集客の可能性は健在といえます。

また，水戸まちなかフェスティバルでは９万人以上，水戸黄門まつりでは延べ９０万人以上の人が中心市街地を訪れます。しかし，私たちは，イベント時に人が訪れるだけではまちの持続的な発展は困難であり，いかに平時における中心市街地への集客力を高めるかが課題であると考えます。

中心市街地の大型店や新市民会館ならではの集客力を生かし，訪れた人にまちを歩いてもらうことでまちが活性化するということが理想であると考えます。しかし，そういった施設に訪れる人の多くは，車で訪れ，用を済ませたらそのまま車で帰るという現状にあります。そのような利用者に，いかにまちなかを歩いてもらうのか，その仕掛けづくりこそが最も重要な課題であると考えられます。基本方針にもある歩行者通行量の増加のために，具体的な対策をどのようにお考えでしょうか。

次に，水戸市が促進するまちなか居住について伺います。

本年１０月１日現在の住民基本台帳人口によりますと，都市中枢ゾーンに相当する町丁目では，１５歳から３９歳までの人口比が約２４％です。水戸市全域が約２８％でありますので，若年層のまちなか居住をふやす余地が残されていると考えます。

水戸市では，子育て世帯まちなか住みかえ支援事業が行われているほか，子育て支援・多世代交流センターである「わんぱーく・みと」や病院，小学校等の施設も充実しており，子育て世帯にとっては住みやすい環境であると私は考えております。今後，さらに子育て世帯の居住を促進するために，特に子育てのしやすさを強みとした施策が重要と考えられます。

そこで，「わんぱーく・みと」を拠点に，商店街などとの連携をより一層強くすることがよいのではないでしょうか。

大阪府池田市の関関ＣＯＬＯＲＳチャレンジショップでは，池田市と池田栄町商店街，大学生が商店街の活性化やにぎわい創出を目的として，学生による空き店舗活用事業として，商店街で小学生を預かるサービスを行っています。

このように，水戸市でも中心市街地に子ども預かり施設や，子どもと親が一緒に過ごせるような施設をふやすことで，子育て世帯の居住を促進させられるのではないかと考えます。

そこで，水戸市においては，まちなかでの子育て支援として，「わんぱーく・みと」のさらなる利活用を図らせるための方策，加えて中心市街地での子育て支援のサービス拡充などの政策をどのように展開していくかを伺います。

また，子育て世帯がまちなか居住したくなるためには，子育て支援ばかりでなく，さまざまな魅力も大切だと思っています。子どもたち，子育て世代がまちなかに集まり，住むという環境づくりのために，市はどのようなビジョンを描いているのかをお伺いします。

最後に，中心市街地の新たな核となる新市民会館の開館後の道路混雑に関する質問をいたします。

新市民会館建設予定地に隣接する国道５０号は，現在でも主要渋滞箇所に指定されており，大型店のセール等でも道路混雑が起きております。新市民会館でイベントが開催された時には，さらなる混雑が予想され，緊急車両や路線バスの公共交通の運行に支障を来すことが考えられます。

新市民会館の建設計画における駐車場は３００台分のみであり，周辺駐車場の利用も前提としていますが，ほぼ全ての来場者は，まず新市民会館を目指すことが予想され，駐車できなかった車が近隣駐車場に移動することから，付近の道路混雑が深刻化する可能性もあります。

また，公共交通機関の利用促進やパークアンドライドの活用も対策として打ち出していますが，イベント開催時には周辺の歩道が歩行者で混雑することも考えられるため，シャトルバスのスムーズな乗降が妨げられることが考えられます。

新市民会館周辺の道路混雑を緩和するためには，私たち大学生にも身近な移動手段である自転車の活用が有効であると考えていますが，水戸市の場合，車道の自転車通行が危険な上，地下式の駐輪場は使いづらい点があります。自転車の利用の促進を図るために，使い勝手のよい地上駐輪場を整備して，市も積極的に自転車の促進を広く呼びかけてはいかがでしょうか。

新市民会館周辺の道路混雑緩和のために，パークアンドライド，自転車などの具体的な活用についてどのようにお考えでしょうか。

○議長（村田進洋君）　ただいまの質問に対する答弁を求めます。

市長，高橋靖君。

〔市長　高橋靖君登壇〕

○市長（高橋靖君）　茨城大学人文学部田中ゼミナールを代表されましての永元議員の御質問にお答えをいたします。

歩行者通行量の増につきましては，中心市街地活性化基本計画においても位置づけをさせていただいております。

私は，その増加のためには，都市機能の誘導や拠点機能の強化，充実を図るとともに，水戸ならではの個性と魅力を高めて，交流の創出に向けた取り組みを総合的に展開していく必要性があると考えております。

このうち，拠点の形成といたしましては，まず，水戸芸術館の隣接地に，お話のありましたとおり，新たな交流や活力，にぎわいが創出されるコンベンションの拠点となる新市民会館を整備してまいります。

新市民会館では，年間約６０万人の集客を見込んでいることから，その拠点としての効果を高めていくためにも，隣接する水戸芸術館と一体となって，市民の多様な芸術・文化に対する意識を醸成してまいりたいと考えています。

さらに，弘道館・水戸城跡周辺地区におきましては，大手門の復元等，水戸の歴史が感じられる景観形成に取り組むことにより，日本遺産に認定された弘道館の入館者数については，平成２６年から平成３３年までに約７万人の増加を見込んでおります。民間による再開発事業が計画されている水戸駅北口地区と一体となった魅力ある空間形成を推進してまいりたいと考えています。

これら２つの拠点の整備による集客を新たな人の流れにつなげていくためには，商店街の方々たちとも連携をし，地域の特色を生かした魅力あるまちの形成に向けた取り組みを推進してまいりたいと考えていま

す。こうした取り組みや公共交通の利用促進などの利便性の向上により，拠点整備やイベント等の集客の効果を中心市街地全体へと波及させていくとともに，定住促進によるまちなかの居住人口の増加にも取り組み，歩行者通行量の増加を目指していきたいと考えております。

次に，子育て支援サービスの拡充による，子育てのしやすさを強みとしたまちなか居住促進についての質問でございます。

水戸市では，中心市街地における子育て環境の充実と多世代交流の促進によるにぎわいの創出を図るために，水戸市大町に，子育て支援・多世代交流センター，いわゆる「わんぱーく・みと」において，子育て世代を中心とした交流の場の提供，ボランティアを活用した親子で楽しめる講座や子どもを預けてのリフレッシュ講座の開催，保健師等による育児相談，子どもの一時預かりなどを行っております。

「わんぱーく・みと」では，昨年度は，４万５，８６６人に御利用いただきましたが，うち約２割が市外からの利用者でございまして，幅広い地域からの御利用をいただいております。平成１９年度の開設以後，まちなかにおける多様な子育て支援・多世代交流を促進するとともに，新たな人の流れを創出し，ひいては中心市街地の活性化や子育て世帯のまちなか居住促進に寄与してきたものと考えております。

現在，「わんぱーく・みと」では，講座や行事の際に，託児や運営スタッフ，さらに講師として，たくさんのボランティアの皆さんに支えていただいております。その中心となっているのは，子育てを終えた世代の方々ですが，今後はさらに，高校生や大学生の皆さんにもボランティアとして運営にかかわっていただいて，まちなかでのより幅広い世代による子育て支援・多世代交流の事業を展開していきたいと考えています。

「わんぱーく・みと」での子育て世代を中心とした，若者と高齢者との多世代交流は，今後，まちなかにおいても高齢化が進んでいく中で，高齢者の生きがいづくりにつながると同時に，子どもたちが，経験豊かな高齢者からさまざまなことを学び，成長して社会性を育むいい機会になっていくのではないかと考えています。

なお，永元議員御提案の商店街で小学生を預かる学生による空き店舗活用事業は，大変参考になる事例であると思っています。商店街などと連携をし，効果的な実施手法について検討を進めていきたいと考えています。

今後も，「わんぱーく・みと」，市民センター等の子育て広場が連携を図りながら，交流の場の提供，育児相談，子育て情報の提供，子育て講座の開催などを行って，子育て世帯に選ばれるまちとなるよう，子育て支援のより一層の充実に努めていきたいと考えております。

次に，子育て世帯がまちなかに住む環境づくりについてでございます。

中心市街地の活性化に向けましては，居住人口をふやすことも重要な要素の一つでありまして，多様な人々が安心して快適に生活を送ることができるよう，まちなかの環境づくりを進めてまいります。

特に，子育て世帯がまちなかに暮らすことで，子どもと高齢者などの多様な人々の交流が生まれて，そのことによって，にぎわいや活力の創出につながっていくものと考えています。

居住人口を増加させる取り組みといたしましては，子育て世帯の方が中心市街地へ住みかえるために，住宅を取得または賃借した場合に補助金を交付する制度を今年の７月に創設をして，１０月末までに２世帯

の子育て世帯の方々に御利用いただきました。今後さらに，民間における都市型住宅の整備促進を図るなど，子育て世帯を初め，多様な住宅ニーズに対応した居住誘導施策を推進してまいりたいと考えております。

まちなか居住を促進する上では，これらに加え，先ほど申し上げた子育て支援などの福祉サービスの充実はもちろんでありますが，生き生きと働ける場や買物の場の確保，バスなどの公共交通の利便性の向上，バリアフリーの推進なども欠かせないものであります。

したがいまして，事業所誘致などにも力を入れていきたいと思いますし，食料品や日用品を扱うスーパーの誘致も進めていきたいというふうに思っていますし，それから医療拠点の充実，さらにはバス路線の再編に向けた公共交通の整備，さらには歩きやすい道路空間などにも努めていきたいというふうに思っております。

さらには，水戸芸術館，弘道館，偕楽園，千波湖など，芸術・文化・自然といった魅力的な資源が多数存在する水戸ならではの水戸らしいライフスタイル，風情を感じ，豊かで潤いのある暮らし方の提案なども，広く発信をしていきたいと考えております。

次に，新市民会館整備に係る道路混雑でございますけれども，私は，一定の時間内に特定エリアへ車が集中しないような施策を重層的に展開することが必要であるというふうに考えております。

他市の事例では，施設の駐車場の空き情報を施設のホームページで随時提供するほか，周辺の空き駐車場を探して迷走することがないよう，適切に誘導するために，周辺の民間駐車場の位置や料金体系を集約した駐車場マップのような情報をホームページに掲載するなどといった事例もあります。

本市の中心市街地には，約９，３００台分の民間駐車場がありますので，これらの活用についても選択肢の一つとして捉え，先進事例を参考にしながら，少し離れた場所に駐車することで，まち歩きを楽しみ，渋滞にも巻き込まれないなど，メリットについても周知を図り，渋滞緩和に向けた情報提供を検討してまいりたいと考えています。

また，パークアンドライドにつきましては，新市民会館の大規模イベント時において，公共交通機関の利用促進に加え，周辺の公共施設の駐車場を活用した臨時シャトルバスの運行などを検討するとともに，バスからのスムーズな乗降が可能となるための一時停車スペースの設置などについても検討をさせていただきたいと思っています。

さらに，自転車の利用促進につきましては，ただいまの御提案を初め，市民の皆様の御意見を参考にさせていただきながら，駐輪場をしっかり整備をして，施設利用者に，環境にも優しく健康増進にも効果的である自転車の活用を積極的に促していきたいと考えています。

新市民会館における交通対策については，周辺道路の整備を初め，公共交通や自転車の利用促進を図るほか，信号機処理を検討するなど，関係部署においても連携を図りながら，にぎわいの創出や交流人口の増加による，まちの活性化と魅力あふれるまちの実現を目指してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（村田進洋君）　３番，播田實澪君。

〔３番　播田實澪君登壇〕

○３番（播田實澪君）　常磐大学のコミュニティ振興学部の播田實澪でございます。水戸市女性議会